

中国地区DMAT実動訓練に参加してきました

看護部 5病棟 副看護師長 西原 壱



11月12日、13日の2日間、中国地区のDMAT実動訓練に参加してきました。実動訓練とは、実災害を想定し、活動を行う訓練になります。メンバーは呼吸器外科医師：原田を隊長とし、看護部：小川、濱本、西原、薬剤部：川崎の5名で隊を構成しました。

今回の訓練は、11月11日19時、島根半島沖合震源の震度7マグニチュード7.7が発生、松江市、出雲市を中心に家屋・建築物が倒壊、要救助者多数発生し、中国5県のDMATに要請が入った想定でした。翌12日、午前9時着で参集拠点である松江道加茂岩倉PAに向かいました。「紅葉がきれいだな」と頭によぎりましたが、車内では今後の活動におけるブリーフィングを欠かしません。到着し、まず行ったことは衛星電話等の衛星通信の確立です。地震の影響で公共電波は使用不可との想定のため、すべての連絡手段として衛星電話を使用します。この衛星電話、使い方が正直不安。全員で説明書に目を凝らし、なんとか電波受信を確認しました。その後、島根県立中央病院に設置されたDMAT活動拠点本部へ派遣され、240床規模であるA病院の被災状況を調査する指令を受けました。入院患者状況、ガス、水道等ライフラインをはじめとする各種被災状況を確認しました。水分、薬剤が今後枯渇する予測を立て、支援の要請を行うとともに、A病院は患者避難の必要性は無く籠城可能として報告し、調査を終了しました。

次の指令は島根大学病院内で病院支援指揮所の立ち上げと本部運営でした。本部運営とは、傷病者の受け入れ、搬送調整など県の災害対策本部などと調整し現場を指揮していく指揮命令系統の中枢部における活動になります。原田隊長は今年度、「統括DMAT隊員」となり、われわれの隊が本部活動を行う資格を有しているために与えられた任務でした。現場に到着時、すでに2隊のDMAT隊が本部を立ち上げ運営を行っていましたが、あまりの情報量の多さに捌ききれず現場は騒然としていました。その状況を見た原田隊長が一声あげ、全員に一度作業を中断させて、現状把握と分析、活動方針を全体で共有する時間を取った後、再度業務役割を設定し、組織の再構築を行いました。その後の情報統制は見違えるばかりとなり、優先事項を適宜アップデートし、傷病者対応数十名、患者搬入依頼2名、広域搬送調整4名に対し、大きな混乱なく対応することができ、今回の訓練を終了しました。

今回の訓練で、平時より災害対応に対する知識、技術の研鑽を積むことはもちろん、どのような場面でも冷静に対応し、チームをまとめ上げるコミュニケーション力、リーダーシップ力を隊全体として身につけたいと全員が強く思えた貴重な訓練になりました。

